

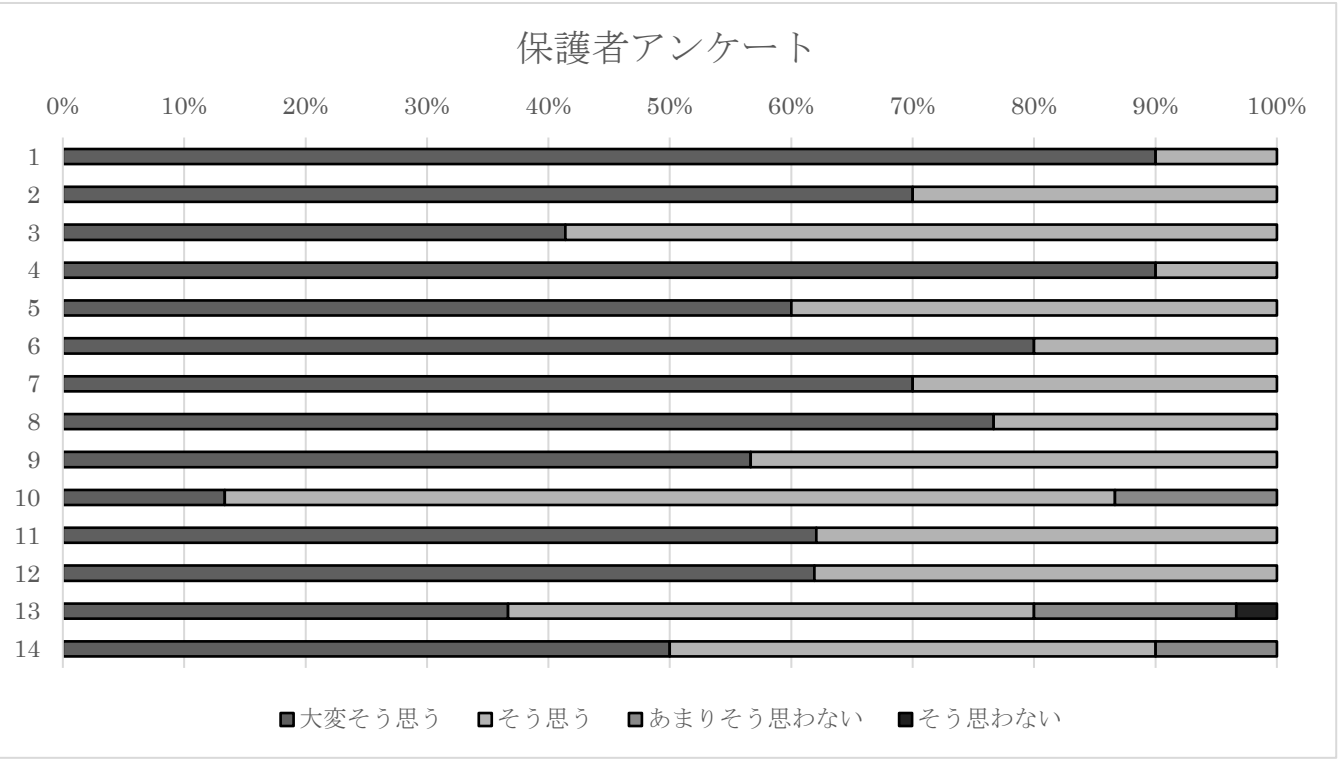
乾隆幼稚園だより特別号

京都市立乾隆幼稚園

園長 豊田 寿美夫

保護者・地域みなさま、本校の学校教育にいつもご理解とご協力ありがとうございます。
(9月)に実施した保護者アンケートの集計ができました。結果をお知らせいたします。

1	幼稚園は教育目標「心身ともに健やかで生き生きとした子どもの育てる」に向けての保育を行っている。
2	幼稚園の環境は、安全で子どもが豊かな経験ができるように整えられている。
3	保幼小連携・地域との連携等の取組は子どもの育ちにつながっている。
4	幼稚園には、さくらんぼ組や預かり保育等の子育て支援の取組のあることを知っている。
5	幼稚園は、お便り（子どもの姿）やホームページで活動の様子がわかるように発信している。
6	教職員は、子ども一人一人に温かいかわりをしている。
7	教職員は、生き生きと働いている。
8	お子さんは、楽しく幼稚園に通っている。
9	お子さんには、今、夢中になっているものがある。
10	お子さんは、自分のことは自分でしようとする。
11	お子さんは、家族、友達、先生など周りの人に親しみをもってかかわっている。
12	お子さんは、楽しんで預かり保育に参加している。（利用者のみ）
13	「ノーテレビ、ノーゲームデー」の取組だけでなく、普段から親子で絵本を読むことを続けている。
14	幼稚園での出来事など、お子さんの話に共感したり対話したりする機会は多くもてている。



今年度は例年同様の活動ができると期待していましたが、世界的なコロナ禍は継続し、幼稚園としても感染拡大防止の取組は続けました。特に4月25日に緊急事態宣言が京都府に発出されてからその延長やまん延防止等重点措置に移行し7月11日まで主に参観や園外保育の制約が続きました。8月2日からのまん延防止等重点措置が8月22日より緊急事態宣言になり9月30日まで続けました。2学期早々の行事が予定変更になり、プールを使った水遊びは9月の1週を計画していましたが中止になり、運動会も乾隆小学校との連携で11月2日に延期しました。

今回の項目の考察です。

・項目1 とても良い評価になっています。京都市立幼稚園の遊び込む中で生きる力を育てる保育について理解し、本園を選んでいただけているので、今後も期待に沿うべく努力していきたいと考えています。少人数園としての異年齢での活動も評価されていると感じています。

・項目2 この項目は園として意識している部分になります。結構古い施設のため傷みが出ていますので、気になるところを放置せず、できる所は直し、難しい所は業者に依頼して直すようにしています。安全が一番ですが、古くても掃除や草抜き、剪定ができている園を目指しています。四季折々の果実のできる樹木があることは勿論、露地栽培の野菜を園庭で育てていることは環境としての本園の売りになります。

・項目3 特にコロナ禍で、できなかったことが多いです。その中でも保幼小の連携はしていますし、地域とのつながりはもっているのですが、活動が少なくなっている分、少し見えにくくなっているかもしれません。見守り隊の方には毎日お世話になっています。また、女性会の方が取り組む「洛いも」は今年も植えています。今後、少しずつ元の状況に戻ればよいと思います。

・項目4 本園の皆様にはよく周知できているようです。これもどのように園外にアピールするかが課題かもしれません。今年度、小規模保育所に「さくらんぼ組」の案内をもっていったり、HPを活用したりしています。本年度幼稚園紹介ビデオもつくってもらいましたが、園児募集は最大の課題と言えます。保育会の方にも「七夕まつり」でお世話になりました。

・項目5 ホームページについてはご指摘もあり意識しています。そこが以前より評価が良くなってきていることにつながっていると思いますので、今後も努力していきたいと思います。お便りも概ね好評です。写真販売についてご意見をいただいています但検討していきます。

・項目6, 7, 8は関連していると思います。概ね高評価なのは嬉しく思います。コロナ禍、参観ができにくい中でも、幼稚園では送り迎えの時など保護者の皆様との接点があるのが強みです。

・項目9からの子たちに関する問ですが、特に項目10など、その子の成長の速さも含めた特性があります。ご家庭で自分のことは自分でやることを小さいころから少しずつでも取り組むことが習慣化につながるのだと思います。「焦らず、他と比べず」が肝要です。

・項目12 預かり保育で外遊びができないかというご意見がありました。人員や安全面のことで難しいのでご理解ください。

・項目13です。現在も幼稚園の絵本利用はコロナ禍仕様です。昨年度、よく利用する方とそうでない方と二極化したことを伝えました。そこで今年度、手立てを考えると言いましたが、コロナ禍が継続していて課題がそのままです。項目14につながるところも大きいので、少なくとも絵本の読み聞かせの重要性は伝えていかななくてはならないと考えています。

・項目14は少しできていないと考える保護者の方がいます。学齢期になっても家庭でのコミュニケーションは重要ですので意識していただくことは大切です。ただ小中学生になって子どもたちにもアンケートをとると、保護者との食い違いが大きく出る項目の一つになります。幼稚園の段階から子どもの話を聞くことが習慣化する保護者を目指していただきたいと思います。